


No.74

2026 年
1 月 1 日 その人らしさを大切に
社会福祉法人
すこやか福祉社会

住みなれたまちで



謹賀新年



新しい年のご挨拶をさしあげます



職員の皆さん、利用者、ご家族の皆さんと、地域社会をともに担う事業者や行政の方々に、新年のご挨拶と、日頃のご奮闘およびご支援への感謝を申し上げます。

政治・経済環境は楽観をゆるしません。日本の資本主義経済は人々への配分を切り下げ続け、すでに先進国からは脱落して、さらに衰退の道を進もうとしています。

政治では、社会保障を抑え込んで現役世代の負担を減らすとか、戦争の準備を優先するために「外国人」と「日本人」、「高齢者」と「現役世代」を分断することで支持を得ようとする勢力が跋扈しています。介護・保育・医療について言えば、これらはそもそも現役世代が安心して働くうえで欠かせない仕組みです。費用や財源だけを議論してこれらを粗末にするのは、未来をないがしろにする行為です。

すこやか福祉社会、東都保健医療福祉協議会、民医連運動は、政治・経済の異常な流れに拮抗して、人々の暮らしと地域社会の持続可能性を支える使命をもっています。

そんな重大な使命を果たす可能性は、どこにあるか。すこやか福祉社会を支えている皆さんの中にすでに築かれつつあると、私は思います。

当法人は十の自治体のさまざまな地域で、四九の事業所・営業所と三つのエリア、本部を運営し、幾層ものマネジャーをもっています。厳しい事態、少子高齢化と社会経済の混乱、さらに新型コロナウイルス禍を経て鍛え上げられ、思いと知恵と工夫を重ね合わせる対話と協働の豊富な経験を蓄積しています。

すこやか福祉社会はケアの質と働く条件で日本のトップレベルを目指しています。人材の獲得と育成、仕組み、施設と設備、マネジメントの技量、経営状態を改善することが課題です。

職員・役員およびすこやか福祉社会を支援する会の皆さまの力が存分に発揮されるよう、私も力を尽くします。何卒よろしく願いたします。

社会福祉法人すこやか福祉社会

理事長 藤井 博之

2026

介護・保育事業部より新年のご挨拶

統括マネジャー
天野 義久

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、介護業界全体が直面する恒常的な人手不足、そして物価高騰による厳しい経営環境の中での事業継続となりました。

この難局を乗り越えられたのは、職員一人ひとりの献身的な奮闘に尽きます。業務の効率化に知恵を絞り、互いに支え合い、何よりも「ご利用者様の笑顔のために」真摯にケアを提供し続けた職員の努力に、心からの敬意と感謝を表します。

また、職員の努力を力強く支えてくださったのは、ご利用者様、そしてご家族様からの深いご理解と温かいご協力です。サービス提供体制が逼迫する中でも、温かいお言葉をかけてくださり、当法人の運営にご協力いただいた全ての皆様へ、重ねて心より感謝申し上げます。皆様あつての一年だったと、改めて深く感じております。

さて、私たちは今年度「第3次5ヵ年計画」を始動いたします。当法人にとって未来を切り拓く重要なスタートとなります。まずは「多機能拠点整備」や「職員の負担軽減と働きがいの向上」に取り組み、福祉用具を含む新たな技術の導入による業務改善を進め、職員がより質の高いケアに集中できる環境を整え、意欲とキャリアアップをさらに高めてまいります。

この先5年間、私たちは「感謝と挑戦」を胸に、職員の努力が報われ、ご利用者様の安心に繋がるよう、全力で前に進んでいきます。

保育事業部部長
松岡 愛子

新年あけましておめでとうございます。

地域の方々保護者の皆様、昨年はこばとの森保育園の大規模修繕をはじめとして、各保育園・学童の運営にご理解ご協力で感謝申し上げます。

保育所では75年ぶりに保育士の職員配置基準が見直しされました。働く職員にも目を向けられ処遇改善が進み、少子化の進行に対しては、保育園保育料等の家計負担軽減、2026年には「こども誰でも通園制度」が本格的に始まります。しかし、それに反して人手不足は否めません。制度についても子ども・保育現場に寄り添ったものではなく課題を残しています。

学童保育では、待機児童解消もあり、どの学童も大所帯です。その中で理念にありますようにひとり一人に寄り添った保育をそれぞれ違った環境の中で、子どもたちの放課後の居場所づくりを常に模索している状況です。

事業部として、施設間を超えた協力体制、「保育の質の向上」を目的にした保育園・学童の年1回の合同研修の継続に伴い、年齢別担当交流他職員交流(多職種)が行われ保育園・学童の状況を共有し学び合いを進めてきています。今後保育状況が変わりつつある中、みんなで力合わせて向き合っていく事が必要不可欠と思っています。子どもの笑顔を糧に進んでいきます。



第 22 回 協議会介護活動交流集会 ～地域・多職種連携～

11 月 22 日(土)、千住介護福祉専門学校とオンライン(Zoom)を会場に、第 22 回協議会介護活動交流集会が開催されました。当日は「地域・多職種連携～ひとりじゃないよ、みんないるよ～」をテーマに、会場とオンラインあわせて 100 名を超える参加があり、11 演題の発表と記念講演を通して、介護現場における連携の在り方を熱く語り合う時間となりました。



＜最優秀事例＞小規模多機能サービスひまわりの家



元気になる介護研究所 代表 高口光子さん

【在宅生活と地域連携など多彩な実践報告】

千住介護福祉専門学校の代表事例や本選に進んだ各事業所からは、「在宅生活を守るための支援」「認知症の方が安心して暮らし続けるためのチームケア」「困難ケースに対する多職種連携による職員負担の軽減」など、多彩な実践報告が寄せられました。ひとつひとつの発表には、利用者・家族の思いに寄り添いながら、医療・看護・介護・地域資源などがどのように力を合わせているのかという、日々の工夫と試行錯誤が凝縮されていました。

最優秀賞には、「繋がりを活かして寄り添った連携作り」を発表した小規模多機能サービスひまわりの家選ばれました。発表では、ひとりの利用者の暮らしを支える過程で、家族、友人、地域、ボランティアなどどのように情報共有し、支援を組み立てていったかが、丁寧に示されました。

【介護の原点を問い直す、胸に響く 90 分】

クライマックスとなったのは、元気がでる介護研究所 代表 高口光子さんによる特別記念講演です。高口さんは、医療モデル・生活モデルといった枠を越えて、「人としてどう向き合うか」という根本に立ち返ることの大切さを、ユーモアを交えながらも力強い言葉で語りました。「自分のないものには介護はできない」「介護職の専門性を自覚し、言葉にして伝えられる人になろう」といったメッセージに、会場もオンラインも真剣な表情で聞き入っていました。

アンケートでは、「初心に帰るきっかけになった」「これまでで一番心にガツンときた」など、前向きな感想が多数寄せられました。発表・講演を通して、介護職が一人で抱え込むのではなく、「チームで支える」「地域で支える」という視点を共有できたことは、今後の現場実践にとって大きな財産となりそうです。





**ご長寿
おめでとうございます**

すこやか福祉会を利用されている、ご長寿の利用者さまを
ご紹介させていただきます。

※年齢は 2026 年 1 月 1 日現在です

＜質問＞長寿の秘訣を教えてください

105 歳

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷

熊木 ハツイ 様

「頑張って働くことです」



102 歳

デイサービスセンターさくら草

中込 セツ 様

「どうってことない！みんなに任
せる！」



101 歳

デイサービスセンターすこやか

杉本 フク 様

「食べ過ぎないこと」



101 歳

デイサービスセンターさくら草

脇水 喜美子 様

「相談事を聞き、その人たちを
元気にさせる♪」



100 歳

グループホームかねがふち

高澤 トヨ 様

「毎朝の青汁牛乳」



106 歳

ファミリーケア柳原 綾瀬営業所

北島 ふみゑ 様

「よく寝る事。よく食べる事よ」



104 歳

グループホーム青戸

深山 静子 様

「好き嫌いをしない。ここにいる皆さ
んが優しくしてくれるおかげです」



101 歳

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷

戸沼 和子 様

「わがママを言うことです」



101 歳

小規模多機能サービスよりみちの家

吉原 一子 様

「年を意識しない事、身体を動か
すこと。今でも洗濯は自分でして
います」



100 歳

新宿在宅サービスセンター

小野 定助 様

「好きな事があれば続ける事。
継続は力なり 僕は詩が好き」



100 歳

ヘルパーステーションさくら

星野 文子 様

「歩くことと規則正しい生活
を送ること」



100 歳

デイサービスセンターさくら草
中山 チカ 様

「食べて歩いて一生懸命働く！」

**100 歳**

デイサービスセンターさくら草
近藤 美佐子 様

「毎日、豆乳を飲むこと」

**99 歳**

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
瀬間 栄子 様

「やろうと思ったらすぐやること、
家でじっとしていないこと」

**99 歳**

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
光瀬 亮 様

「よく歩くこと」

**99 歳**

グループホーム青戸
青木 シヅ 様

「気づいたら長生きしていた」

**99 歳**

デイサービスセンターさくら草
矢崎 美佐子 様

「素直に生きる」

**98 歳**

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
山岡 ヨシ 様

「ちょっとしたことですぐ病院に
行く」

**98 歳**

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
茂呂 スミ子 様

「好きなものを食べる」

**98 歳**

グループホーム青戸
庄司 千歳 様

「92 歳くらいまで働いていたから
身体が丈夫になったのかもしれない。
まわりの人に恵まれたことも
大きいと思います」

**98 歳**

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
吉田 ミヨエ 様

「遺伝」

**98 歳**

デイサービスセンターさくら草
長竹 良 様

「ご飯をしっかり食べること」

**98 歳**

デイサービスセンターさくら草
崎村 都留子 様

「おてんば娘、短距離選手で
した」



すこやか福祉会を支援する会 主催

第 14 回すこやか作品展 優秀賞発表！



『すこやかの木 みんなの木』
デイサービスセンターすこやか



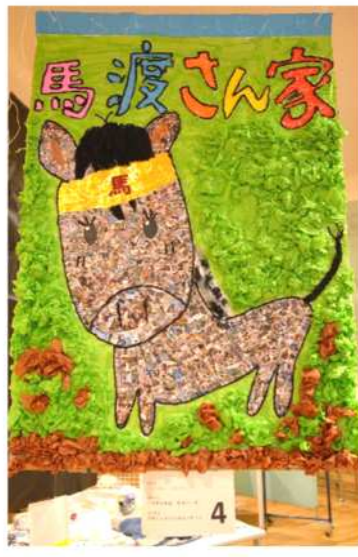
『福さんちの富士さん』
グループホーム福さん家



『涼を感じる』
デイサービスセンターなごみ



『一富士二鷹三茄子(ちぎり絵)』
デイサービスセンターさくら草



『よく見て！うまさん！』
小規模多機能サービス馬渡さん家



『ひまわり』
小規模多機能サービスひまわりの家



『富士山』
デイサービスセンター采女の里



『木目込み細工』
デイサービスセンターすこやか
(小林千恵子 様)



『90's 三人娘による書道』
グループホームかなまち
(松本せつ子様、池愛子様、佐藤トク様)



『水墨画屏風』
特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
(利用者様)

第 37 回柳原健康まつり



11月2日(日)、「地域で守ろう、平和と健康」をスローガンに、第37回柳原健康まつりが開催されました。

今年は設立30周年を迎える介護老人保健施設千寿の郷が会場となり、好天にも恵まれ、多くの来場者でにぎわいました。よりみちの家とデイサービスよりみちは恒例の手作りどら焼きを出店し、「粒あん」と「さつま芋あん」の2種類を販売しました。前日から、さつま芋10キロの皮むきに始まる本格的な準備を利用者様と行い、当日は多くの職員ボランティア(職員のお子さんも参加)の支えもあり、357個を完売することができました。売り子として参加した利用者様の、いきいきとした接客がとても印象的でした。

屋外にはどら焼きのほか、唐揚げ、焼きそば、フルーツ、あんみつ、大福など多彩な模擬店が並び、会場内では太鼓のオープニングに始まり健康体操やキッズケア、抽選会なども行われ、大盛況となりました。毎年楽しみにしているという来場者の声も聞かれ、地域の医療・福祉機関と住民の協力で続く柳原まつりが、地域に確かな貢献をしていることを実感できた一日となりました。

小規模多機能サービスよりみちの家 西間木 まゆ



どら焼きを販売しました！

第 34 回とうかつ健康まつり



職員でゴスペル披露しました！

10月26日(日)に千葉県流山市の東葛病院にて開催された「第34回とうかつ健康まつり」は、東葛病院職員や東葛病院友の会や地域の団体による模擬店やバザー品が立ち並び、ステージでは関係者による音楽や歌、劇が披露され、一日中にぎやかなお祭りでした。ひまわりの家も模擬店とステージで参加させていただきました。

模擬店では毎年恒例の三色いなり寿司を販売。朝早くから職員が心を込めて作ったいなり寿司135パック(1パック3個入りなのでいなり寿司はなんと405個！)は愛情たっぷり！ヘルパーステーションきずなの職員も売り子として協力していただき、お昼前には完売するほど人気でした。

そして、私たちのもう一つのメインイベントはステージでゴスペル披露です。ひまわりの家の職員とヘルパーステーションきずなの職員で「OH HAPPY DAY」と「上を向いて歩こう」を熱唱してきました。ひまわりの家の利用者様も応援に駆けつけ、ステージを盛り上げて下さいました。流山地域一丸となって盛況を呈した素晴らしいお祭りとなりました。

小規模多機能サービスひまわりの家 荒川 真理子



2026 年度 4 月新卒 介護・事務 内定式&内定者の集い



介護 新卒内定者で記念撮影

11 月 2 日(日)、健和会老健千寿の郷を会場に柳原健康祭りが盛大に開催された日の午後、柳原リハビリテーション病院で 2026 年度新卒介護職員・事務職員の内定式と内定者のつどいを行いました。

11 月の時点で、介護職員は 5 名、事務職員は 2 名が内定していて、合わせて 7 名の内定者が参加しました。

今年はリハ病院の施設見学もあり、施設見学、内定式まではとても緊張した様子でした。

内定式後のつどいでは、先輩職員が飾りつけを施し、レクリエーションを考えるなど、内定者の緊張を和らげ少しでも笑顔になってもらいたいと準備をしていました。

レクリエーションは、3 つの自己紹介に 1 つのウソを混ぜ質問を通してウソを見抜くゲームと、ジェスチャーのみで 1 月から 12 月まで誕生日順に並ぶというゲームでした。どちらも初対面ではハードルが高いかと思いました。さすが介護、福祉の業界を目指しただけあり最初から予想以上に盛り上がりました。

その後の先輩職員との交流も、レクリエーションからの勢いのままあっという間に時間が過ぎていきました。

つどい終了後、内定者同士で LINE 交換をしている様子も見られ、一日通して大成功を収められたと安心しました。まだ現時点では配属先は決まっていますが、4 月から一緒に働くことが楽しみです。

東部エリアマネジャー 中野 一仁



2025 年ももうすぐ新しい年を迎えようとしています。朝夕だけでなく、日中もかなり冷え込むようになってきました。金町学童の子ども達は、そんな中でもとってもパワフルに活動しています。

学校から帰ってくると、まずは自分の荷物をロッカーにしまい、そこから自分で過ごしたい場所を決めて過ごします。金町学童では、1 階、2 階、公園と 3 つのコーナーで過ごすことができます。もちろん移動も自由です。その中で特に子ども達に人気の場所が公園です。やっぱり、どんな時でも動きたいですね。

一輪車は特に女の子達に人気の遊びで、1 時間でも 2 時間でも乗ってることが出来ます。鬼ごっこ等も学年問わずみんなで楽しめる人気の遊びの一つです。

そんな子ども達を見ていて思うのが「本当に元気」の一言です。特に公園では多少風が強くても、小雨が降っていても、おかまいなしに遊ぶ金町学童の子ども達です。一緒に外で遊んでいる職員の方が風邪をひきそうです。ヘッ！クシヨン!!

金町学童保育クラブ 主任 山岸 和愛

